



平成30年9月1日現在

| | |
|------|---------|
| 総世帯数 | 1,448世帯 |
| 総人口 | 2,651人 |
| 男 | 1,248人 |
| 女 | 1,403人 |

公民館七十年の歴史

中条東第四町会 中野 幸正

当町会の公民館は、昭和二十五年以来幾度かの改築を経て、今日に至ります。

平成八年までは貸席料が維持管理費を多少なりとも上回っておりましたが、それ以降は貸席料は減る一方、維持管理費が増え、町会の負担になっております。

昭和の時代には軒下に縁側もあり、お年寄りがお宮のお参りがてら腰掛け世間話に花を咲かせていました。

またその頃まで公民館に於いて、敬老会の催しもあり、町内のお年寄りを接待しておりました。食事をし、お酒を飲み、カラオケもあり賑やかな敬老会を楽しみにしているお年寄りも大勢いました。

時代の流れと共に敬老会の参加者も徐々に減り、公民館での敬老会も開催されなくなりました。
平成十年までは公民館の庭



昭和59年9月 公民館での敬老会

にプランコ・鉄棒・滑り台があり小さな子ども賑やかな声が聞こえたものです。

公民館に於いて役員慰労会を何度か催しましたが、会場の準備から料理、接待まで二役の負担が多く、今では会場を余所に移し開催しております。

平成二年の改築より二十八年の歳月を経て、雨漏りの補修・トイレの洋式化・座卓と座布団から椅子とテーブルの入替等かなりの経費が掛かっておりますが、新年会・秋葉神社の祭典・直会等町会の住民が集い、親交を深める重要

夏の思い出

小池町 鴻田 康子

遙か昔、昭和二十年代のこの辺りの子供たちの話です。

夏休みに入るとすぐに八坂神社のお祭り。色がみののほりに筆で八坂大神と大書、年齢氏名も書いて、奉納。次は天神祭り、舞台のお囃子の練習。

「ドンカッカドンカッカ、ドンドンカッカドンカッカ」とか「チャンチャンリツチャンチャンリツチャートチャー トチャー、チャライコドン」とか、節をつけて覚えたり。そいえば大月のおじさんという篠笛の名手がいて長いこと指導していました。

舞台の引き回しのときは本囃子が圧巻。笛がピーツ、太鼓は乱打、イッヨーツという子供たちの掛け声が響き渡り、車輪はガラガラ、電線を持ち上げるおじさんは大忙し。道路は舗装されてなくて、汗と埃とブッカキ水のお祭り。

な場所であります。

住民の集いの場である公民館を末永く次代に受け継いで頂きたいものです。



お盆には、女の子はほんぼん。ゆかたに下駄、髪にはお花紙の花、きれいな提灯に口ウソクつけて（つけてあげるのは六年生）、歌いながら行きます。天神さまと四柱神社。「ほんぼんとてもきょうあすばかり、あさつてはおやまのしなれーくさ…」
木の電柱に裸電球だけの暗い街です。
男の子は青山様、元気に練り歩きます。
「青山さまだいワッショイ コラショイ、ワイワイワッショ、ワイワイワッショ、ワイワイワッショ、ワイッ。」
この街にそんな時代もありました。
現代の子供たちは舞台の彫刻の物語を楽しんで勉強し、元気なお囃子を街に響かせています。女の子のほんぼんは

第21回 第二地区文化祭

日時 11月10日(土)・11日(日)
9:00～16:00

◆出展作品

◆バザー用品

募集中!!

※詳細は、今後回覧されるチラシをご確認下さい。



ありませんが、青山様が一緒です。今年、先頭に立って来てくれた女の子のお寶銭箱が、エッ！と昔の中村屋のかりんとうのカンだよ。こんなところで継がってる。嬉しくなりました。平和な時代、ずっと続いてほしいです。

第17回第二地区盆踊り大会

8月12日(日)、約380名の皆様にご参加いただき、盛大に開催されました。ありがとうございました。



消防団として今出来る事

松本市消防団 第三分団
分団長 飯森 健至

消防団に入団し早23年目、大勢の方に支えられ活動できる事に感謝しております。

消防団は各自仕事を持ちながら、火災時の消火活動や行方不明者捜索、火災予防広報、花火大会等の警戒活動などを行っています。各訓練に加え、近年多様化する自然災害への対応が必要となっており、災害現場で活躍している消防団員の姿を報道で見ると私達の益々のスキルアップが大切だと痛感します。

松本市で二千人まで減少した団員数に危機感を感じ、いつか来るのではなく、いつ来ても大丈夫な災害時の一つの力として、一人でも多くの団員確保が今できる役割の一つだと思います。少数精鋭の三分団ですが、本年六月には消火動作の基本である松本市ポンプ操法大会小型の部に出場し、第二位で勝ち上がる事ができました。早朝や夜間の訓練で団員皆で努力した結果です。

「自分の街は自分で守る」消防の精神で、自助・共助・公助の窓口となり、地域の力になれるよう、日々精進していこうと思います。



すすき川

老生初めて今月号の小欄担当を仰せつかり、はてさて何を書いたらと思案の末、表題にちなみ「すすき川」の思い出を思いつくまま書いてみようと思いました。

昭和三十一年、源池小学校三年生のとき、何の授業かは忘れましたが、学校から小松橋までの距離を巻き尺で計りました。グループ間の計測誤差がかなり大きかったことだけ妙に印象に残っています。また、夏にはみんなで石を積み上げ、水をせき止めて泳いだり、冬はスケートをしたり、今では考えられないことをして楽しんだものです。

その後、仕事の関係で松本を離れましたが、転勤で再び松本に戻ってからは、各種ロードレース大会出場のための練習場として大いに利用し、成果も得られました。現在は、色々とサボる理由を見つけては運動も休みがちですが、小欄との関わりを機にジョギングにも精が出ればと思っています。(川上明彦)

